

ページ	箇所	訂正前	訂正後
2	① 発熱 3行目	高熱出現直前の作の震えは～	高熱出現直前の震えは～
7	Exercise3 4行目	腸管運動以上から下痢や～	腸管運動異常から下痢や～
19	②AST 3行目	骨格筋などに分布すし、～	骨格筋などに分布し、～
23	3) 3行目	グリグラール・ナジャー	グリグラール・ナジャー
23	3) ボックス 2つ目 右	グリグラール・ナジャー	グリグラール・ナジャー
24	①腎機能検査 7行目	SCr を測定と～	SCr の測定と～
53	Exercise 1 6行目	心筋内で刺激が旋回する減少を～	心筋内で刺激が旋回する現象を～
57	ボックス左 3行目	ジゴキシンは使用しない。	ジゴキシンは慎重投与である。
61	わかる！用語解説 3) 泡沫状喀痰	肺うっ血により肺の能才血管～	肺うっ血により肺の毛細血管～
61	わかる！用語解説 4) 頸静脈怒張	首の左右を走行する頸静脈静脈～	首の左右を走行する頸静脈～
95	問 16 解説 3行目	血管拡張物質（エンドセリン、～）	血管収縮物質（エンドセリン、～）
115	③症状 1行目	貧血症状のみならず白血球(顆粒球)、減少による～	貧血症状のみならず白血球(顆粒球)減少による～
120	ボックス 1つ目 左	エポエチンペータ	エポエチンペータ
134	Exercise13 4行目	フォトナジオン	フィットナジオン
162	問 1-1 解説 4	トレチノインやビンブラスチンと併用で～	トレチノインやビンクリスチンと併用で～
172	テキスト ⑤検査 3行目	IgG 型 HA 抗体抗体は～	IgG 型 HA 抗体は～
177	テキスト ③経過 2行目	慢性化率は高い～	慢性化率は高い～
179	テキスト ④検査 1行目	α-フェトプロテイン	α-フェトプロテイン
180	テキスト 4)合併症 6行目	ガベキサート、ナファモスタット	ガベキサート、ナファモスタット
184	1) ボックス 3つ目 右	分枝鎖アミノ酸	分岐鎖アミノ酸

195	③治療 ボックス 3. 胃腸運動調節	トリメブチン	トリメブチン
203	問 9 解説 2 2 行目	分枝鎖アミノ酸/芳香族アミノ酸	分枝鎖アミノ酸/芳香族アミノ酸
209	問 19 問題文 3 行目	ポリカルボフィルカルシウム	ポリカルボフィルカルシウム
215	問 1-2 問題文 処方せん	Rp4)分枝鎖アミノ酸製剤顆粒	Rp4)分枝鎖アミノ酸製剤顆粒
215	問 1-2 選択肢 5	分枝鎖アミノ酸製剤は～	分枝鎖アミノ酸製剤は～
215	問 1-2 解答 5 2 行目	分枝鎖アミノ酸製剤や～	分枝鎖アミノ酸製剤や～
227	テキスト 2) 1 行目	0.15g/day 以下 (アルブミン尿～	0.15g/day 以上 (アルブミン尿～
251	問 7-2 解説 1	高血圧患者では 130/85mmHg 未 満を～	高血圧患者では 140/90mmHg 未 満を～
264	2) ボックス 4 つ目 左	ブテソニド	ブテソニド
290	問 9-1 処方せん	ブテソニド	ブテソニド
290	問 9-1 解説 4 2 行目	ブテソニド	ブテソニド
292	問 11-1 解説 1	抗コリン薬であるチオトロピウム臭 化物水和物は、～	抗コリン薬であるチオトロピウム臭 化物水和物は、～
315	Exercise7 ボックス 下	デキサメタゾン少量抑制試験	デキサメタゾン大量抑制試験
328	問 9 解説 5 2 行目	副腎皮質腫瘍はコルチゾール以外に アンドロゲンも過剰に分泌するため ～	クッシング症候群は、様々な原因 (下垂体腺腫、異所性 ACTH 産生 腫瘍、副腎皮質腺腫など)により慢 性的にコルチゾールが過剰になる状 態である。 副腎皮質の網状層には ACTH 受容 体があるため、クッシング症候群の 中でも ACTH が過剰になる状態 では、アンドロゲンの分泌が亢進し多 毛症を生じる。
338	2)インスリン抵抗性 4 行目	インスリンには血糖低下作用の～	インスリンには血糖低下作用の～
340	ボックス 3 つ目 右	2 時間値 40mg/dL 以上、～	2 時間値 140mg/dL 以上、～
343	ボックス 4 つ目 真ん中	インスリンの過剰降下が～	インスリンの過剰分泌が～

344	2) ボックス 4 目 右	神経を栄養する血管にも及び～	神経に栄養を供給する血管にも及び～
346	ボックス 2 目 右	肝臓での糖新生を抑制が～	肝臓での糖新生の抑制が～
346	ボックス 4 目 左	アログリブチン	アログリブチン
348	5) ボックス 3 目 右	経口血糖降下薬は十分な血糖コントロールが～	経口血糖降下薬では十分な血糖コントロールが～
352	⑥治療 5 行目	糖尿病患者の脂質異常症は摂家局的に～	糖尿病患者の脂質異常症は積極的に～
353	Exercise5 6 行目	薬横紋筋融解症が現れる危険性が～	横紋筋融解症が現れる危険性が～
358	(2)尿酸降下薬 2 行目	尿酸生成阻害薬は～	尿酸生成阻害薬は～
359	薬学コラム 1・2 行目	菅原道長	藤原道長
364	問 1 解説 2 1 行目	目標値は 6.2%未満である。	目標値は 6.5%未満(国際基準値)である。
367	問 8 解説 2	尿蛋白 1g/日以上では 125/75mmHg 未満～	尿蛋白 1g/日以上では 130/80mmHg 未満～
371	問 14-2 問題文 2 行目	処方 2 へ変更され、処方 3 が追加された。	処方 3 へ変更され、処方 4 が追加された。
381	問 2-1 解説 2 1 行目	合併症がない場合の降圧目標は 135/85mmHg であるが～	合併症がない場合の降圧目標は 140/90mmHg であるが～
385	1) 大脳 4 行目	脳の各部位の働きと底が障害された場合の～	脳の各部位の働きが障害された場合の～
386	わかる！用語解説 ※7)	意識して※意を向けない限りは～	意識して注意を向けない限りは～
386	わかる！用語解説 ※15)	物体を見ても、それが～	物体を見ても、それが～
386	わかる！用語解説 ※17)	視野の同じ側が同時に障害されるもの。	視野の同じ側が同時に障害されるもの。
399	3) ボックス 1 目 右	リバウンド現象に※意する。	リバウンド現象に注意する。
403	(1) 抗血栓療法 2 行目	残り 1 時間で点滴静※する。	残り 1 時間で点滴静注する。
404	2) ボックス 1 目 右	シロスタゾールは可逆的に血小板凝集を阻害するため～	シロスタゾールは可逆的に血小板凝集を阻害するため～
405	②成因 ボックス 2 目 左	行動態性	血行動態性
411	(4) ボックス 4 目 右端	稗体発作時に棘徐波	間代発作時に棘徐波

414	(3) ボックス 縦4つ目 横3つ目	心不全。固定姿勢	心不全、固定姿勢
419	ブロック1つ目右 7行目	突発性睡眠に※意が必要である	突発性睡眠に 注意 が必要である
436	問16 選択肢3	3 セレギニン	3 プロモクリプチン
450	問25 解説5 2行目	プロピペリンは排尿困難の改善を目的に～	プロピペリンは 排尿障害である頻尿 の改善を目的に～
463	1) 陽性症状 1行目	人間の知覚や思 考に本来存在しないはずの～	人間の知覚や思考に本来存在しないはずの～
465	ボックス下 2行目	リスベリドン注	リス ベ リドン注
468	③症状 3行目	うつ病性化性認知症	うつ病性 反性 認知症
469	④検査・診断 ボックス 4つ目	4. 人眠障害	4. 入眠 障害
483	問2 解説3 1行目	したがって、抗オキシトシン血症ではなく～	したがって、 高 オキシトシン血症ではなく～
501	①概念 1行目	急性上気道炎に引いて起こる副鼻腔炎の炎症である。	急性上気道炎に 次いで 起こる副鼻腔炎の炎症である。
501	③疫学	③成因	③ 疫学
502	④症状	④成因	④ 症状
509	問1-1 解説 3行目	脳を含めた中枢神経までの経路の～	脳を含めた中枢神経 までの 経路の～
516	①概念 3行目	深在性真菌症(スポトリコーシスなどによる)という。	深在性真菌症(スポロトリコーシス などによる)という。
516	①概念 ボックス 2つ目 右端	スポトリコーシス	スポロトリコーシス
525	問6 解説3	解説冒頭文参照。	スティーブンス・ジョンソン症候群は、発熱を伴う口唇、眼結膜、外陰部などの皮膚粘膜移行部における重症の粘膜疹及び紅斑で、しばしば水疱、表皮剥離などの壊死性障害を認める。
559	⑦治療 2)薬物治療 3行目	バセドキシフェン	バ セ ドキシフェン
570	問6 解答番号	4	1
597	ボックス 5段目	SLEの死亡原因の約60%を占め、SLEの予後を規定する因子である。	SLEの予後を規定する因子である。

605	ボックス 1つ目 左	エムトリシダピン	エムトリシ タ ピン
683	2) ボックス 4つ目 右	閉経後乳がんに対して用いられる。	乳がんに対して用いられる。
684	3) ボックス 1つ目 右	生体で活性化されて後、～	生体で活性化され た 後、～
685	③成因 1行目	押さえることが重要である	押さえることが重要である 。
686	2) 1行目	スクリーニング検査としては、子宮内 膜の～	スクリーニング検査とし て は、子宮 内膜の
686	2) 3行目	治療方針をけている	治療方針を 決定する 。
696	問 30 解答 1行目	オndanセトロンは 5HT ₃ 受容体遮 断薬で～	グラニセトロン塩酸塩 は 5HT ₃ 受容 体遮断薬で～
706	問 16 解説 5	乳癌の多くはエストロゲン依存性で あり、エストロゲン製剤は乳癌患者 に禁忌である。	子宮体癌はエストロゲンが危険因子 になるためエストロゲン製剤を投与 してはならない。
782	Exercise 解答 55	③甲状腺機能亢進症	③高血圧
782	Exercise 解答 68	③130	③140
782	Exercise 解答 68	④85	④90